緑亭川柳作

十一篇上

錦耕堂梓

へ13
3016
21

一陽齋豊國画

子之春新板

十一編下

へ13
3016
22

へ13
3016
21

擬傾城春雨草紙

3016
21

川柳述作
芝玉五
壬子彫板
エつ綱上

夫草双紙の序は春の始の喰積に似て。見はさこそとうく。御最の物と並べ目出度てよある理屈はまことに。噛あえて旨味の有にあらず。作者の心は福引の如く。當る紙何でもよし。楽みあく。下〻の追羽子高く。七種ゆえ。讀も画組も。道具ゴ足ぎ不拍子。物ゆえ扣附。歯固の鏡餅割て。砕と細く行ぎ。切放ち削掛粥杖。迄る女子ほど。身のまひをあて尻の用心。稿は綱引カいらぬ。左義長の陽氣を請て。ぜんざい摺ぶ支と願ひ。恵比寿祭の鯛ゆゑに尾鰭を附て。評判とくと。紙打てとち萬両乃。賣買もあれかしと。書肆の慾ゆえ思ふあるべし。

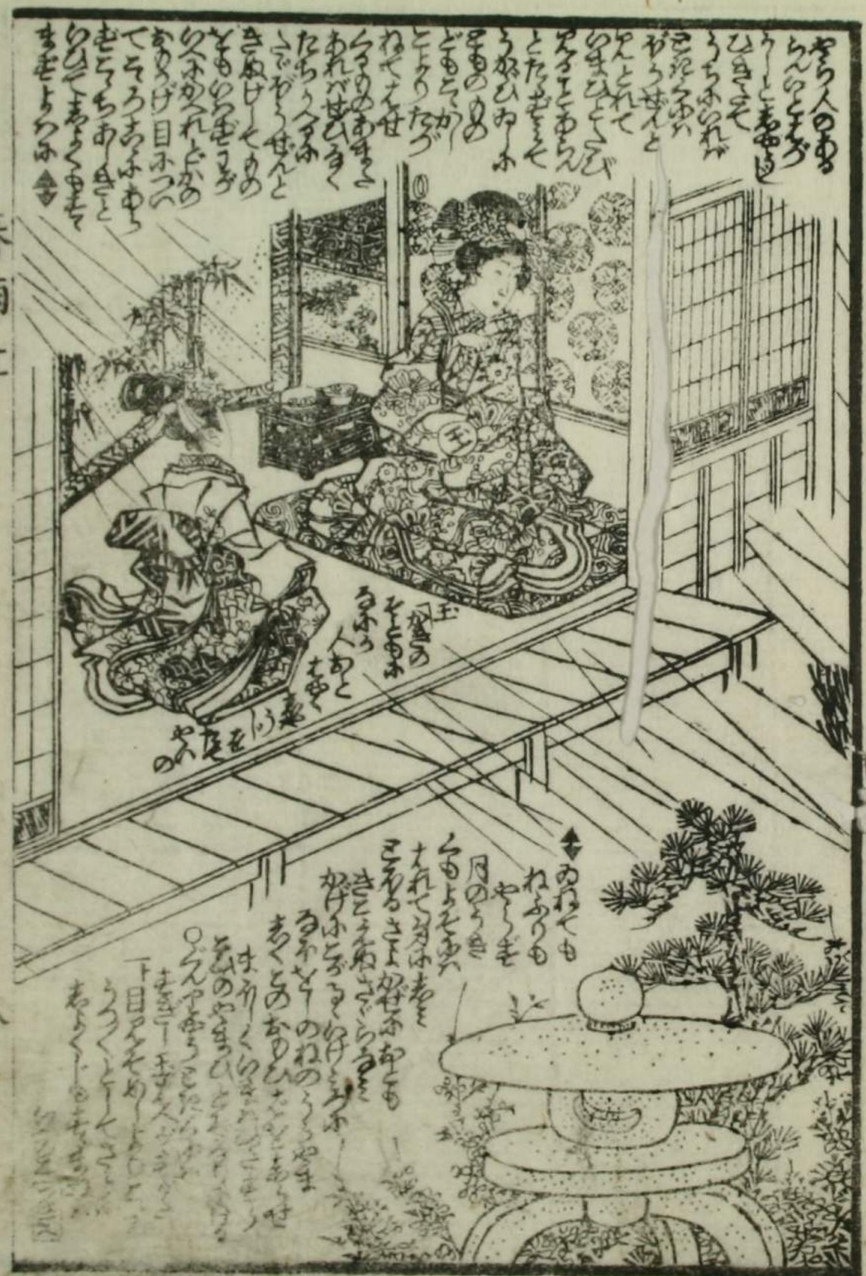
嘉永五年壬子春

緑亭川柳誌

わが
せと
城
ゝを
ぞ
ゝ
いとゝ
ゆゝ
ゆゝ
ゝ
ゝ

春日十二

つぎき
春日十二



時

藏版新刊珍奇雜書略目録

遊仙省春雨艸紙　十二編　一緑亭川柳作
十三編　一陽齋豊國画

四編　仝作
五編　同画

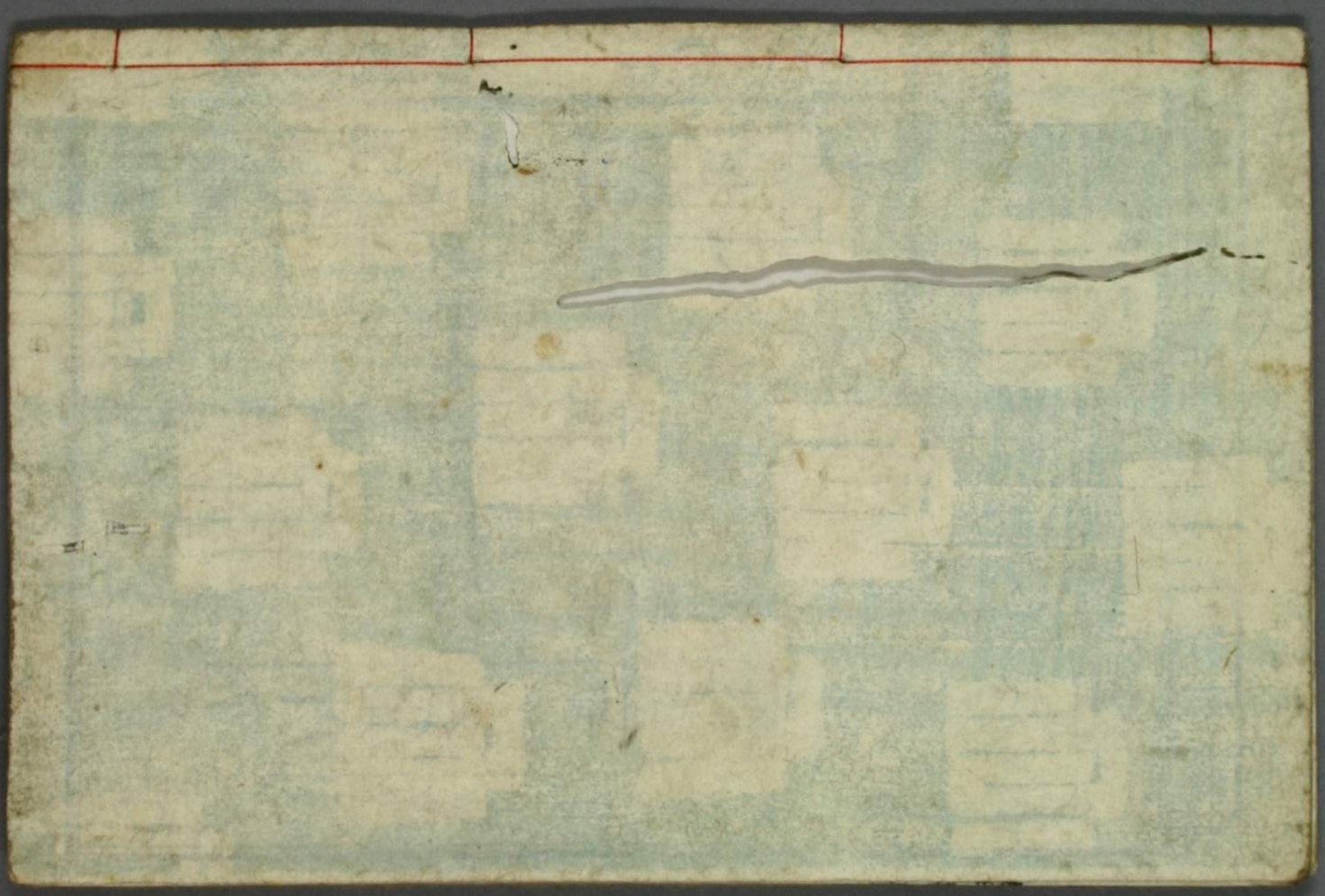
天錄太平記　初ヨリ追々出板　仝作
一勇齋國芳画

奇持百歌仙　同断　仝案
一立齋廣重画

畸人百人一首　全一冊　仝案
同画

狂句五百題　全二冊　五代目川柳著

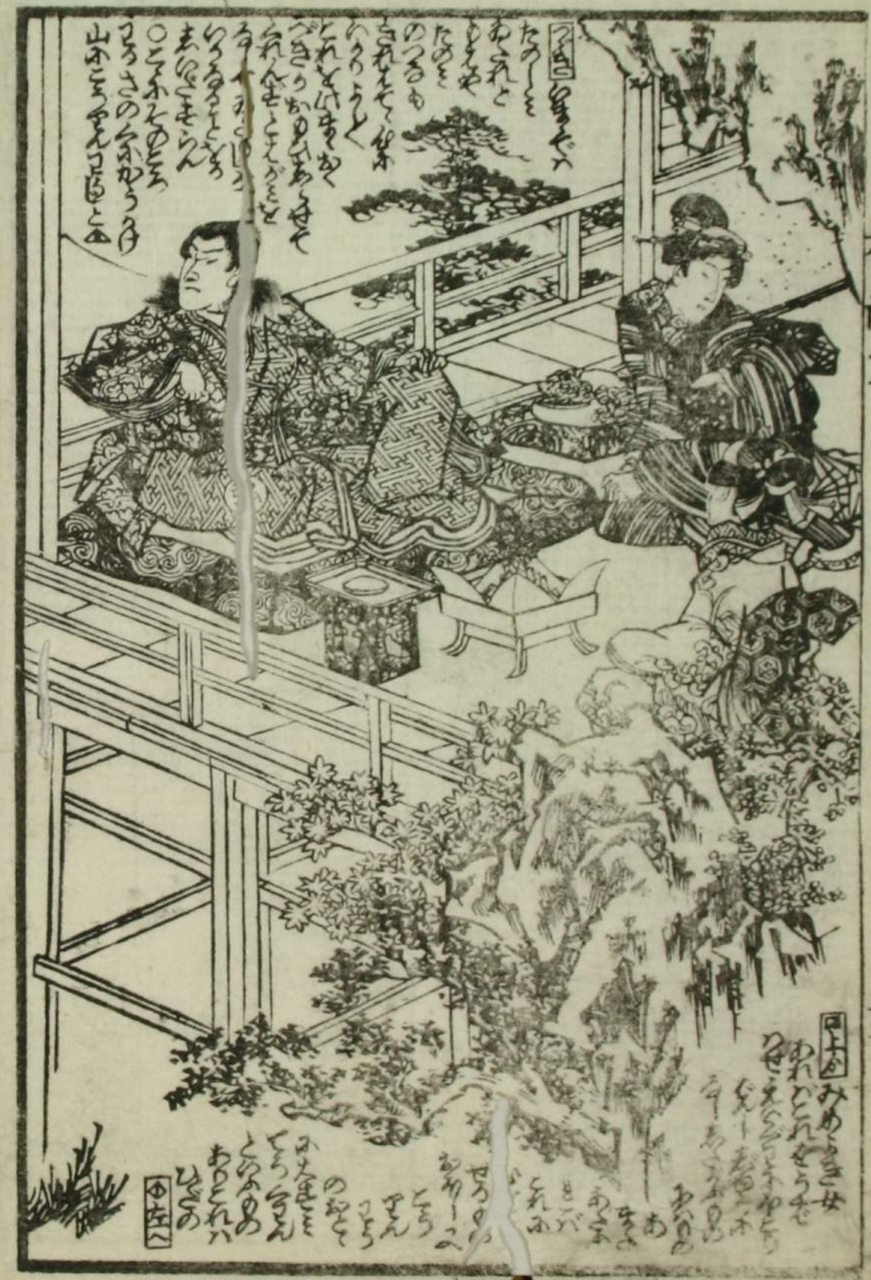
東都書房　馬喰町二丁目　山口錦耕堂發行



へ13
3016
22

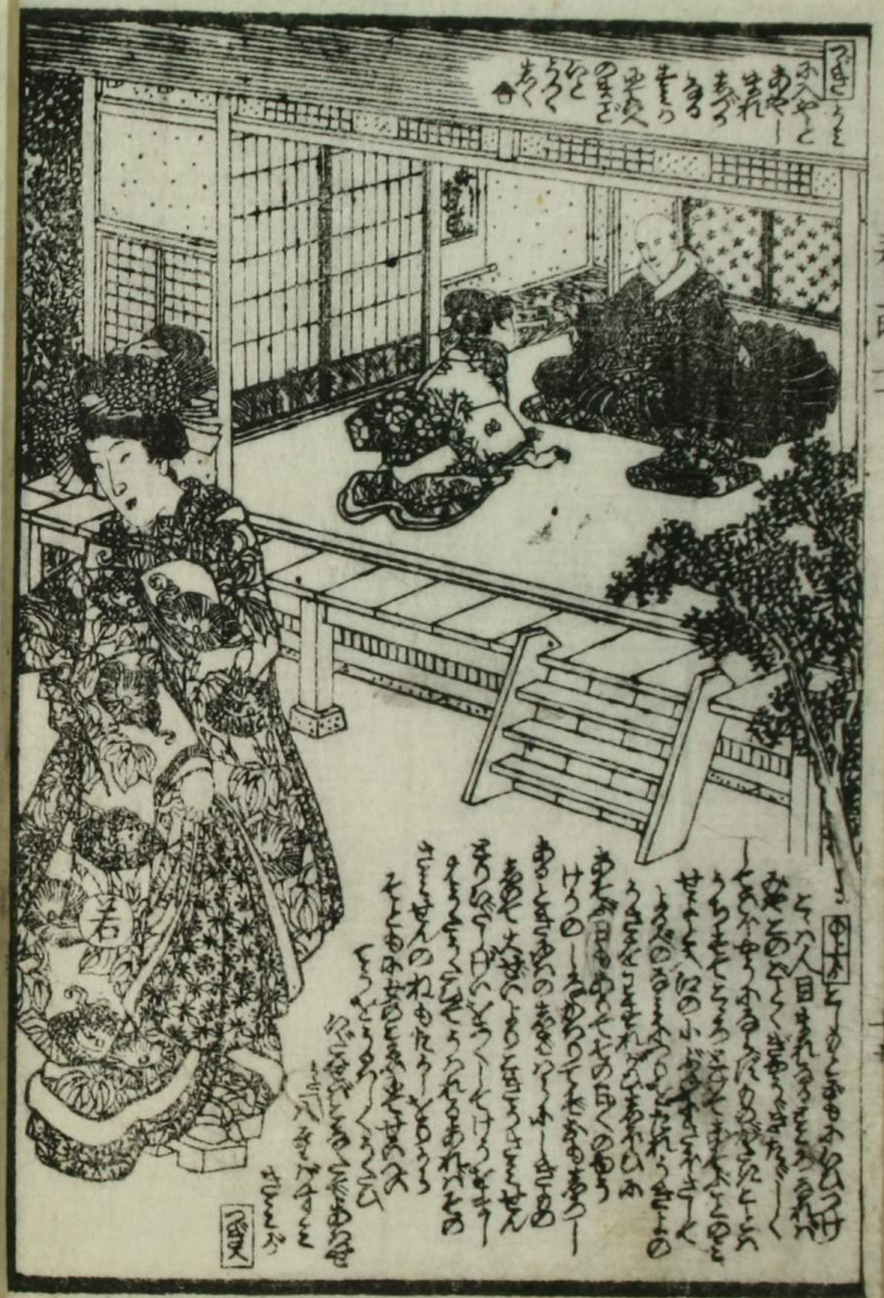
へ13
3016
22

時



千

御泊宿


右

春雨十一
十九
「そのことそれとあれまはねとこゝ久のしんとどどあります
どあるものゝえそでもありますろ
「さあゝさあれハて
くふんじ両まの
与ハぢーの
ゝ
勅撰丹ごろもえん
どものゝまゝーゝで
あります
あの
ゝまろハひいと
きゝのゝこゝ多を
ゝゝすゝとゝゝ
きあゝゝでぎろ
ます

春雨十一
二十
「つゝき」
のゝ
まます
せぬゝゝ
ゝゝきまろ
ゝあせめゞ
お目とゝゝゝ
のゝさんとゝゝゝゝ
まありまゝゝゝとあせあげ
られゝゝさゝりませとれゝゝ
のゝとゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝけのゝの考ぶゝの
せゆたちさゝぎハ見ゝ
めのゝせんと六尺ゝゝゝて
うちゝゝゝゝゝやゝゝれて
ゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
「つゝき」

嘉永五壬子歳新鐫藏版目録

阪東大郎後世譚 八編 西馬作 貞秀画

岸柳四麈談 三編 同作 四編 國輝画

勸善懲惡 乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一陽齋豐國画

江戸鹿子紫草紙 二編 文亭梅彦作 三編 香蝶樓豐国画

小栗判官駿馬譽 中本 西馬編 一冊 芳麗画

象頭山參宮日記 中本 樂亭譯 一冊 國輝画

爲朝弓勢錄 仝 同 同

東都馬喰町二丁目西側 書物地本問屋 山口屋藤兵衛

水滸俠銘鑑 初輯 二輯 三輯 樂亭西馬稿案 鈗持樓國輝画圖